

【くさかとしこ】が見た瀬戸内市の行政！

それでは、行政報告をさせていただきます。

市は、電気代の高騰を原因として、約1億1千万円の補正予算を計上し、可決しました。

光熱水費の推移 (単位 万円)

	R4年度当初予算	R4年度決算	R5年度当初予算	R5年8月補正	備考
本庁舎	1,040	1,396	1,664	1,020	FPS
支所・出張所	276	342	330	200	FPS&中電
ゆめトピア長船	883	1,150	630	749	FPS
消防	537	776	790	410	FPS&中電
小学校	3,528	4,274	4,091	2,410	FPS
中学校	1,536	2,150	1,909	930	FPS&中電
幼稚園	487	522	587	—	中電
公民館	1,310	1,576	1,593	776	FPS&中電
図書館	539	805	802	739	FPS&中電
博物館	722	1,216	1,100	663	FPS
美術館	207	319	309	219	FPS
給食調理場	3,239	3,821	3,268	2,966	FPS&中電
合計	14,304	18,347	17,073	11,082	

電気代は一概には比較出来ません。参考として、FPSと中国電力を両方使用している、消防署の電気代をお示します。(単位 円)

電気代比較		R4	R5
FPS	基本料金	1,871	2,991
	1kW単価 夏季以外	11.7	25.32
	夏季	10.7	26.23
中電	基本料金	1,400	1,400
	~	~	~
	1kW単価	18.77	30.14

瀬戸内市の電力契約のこれまでの経緯

瀬戸内市は、平成28年度から令和2年度にかけて、国の「二酸化炭素排出抑制対策事業」の採択を受け、市内3地域(邑久・長船・牛窓)に太陽光発電・蓄電池・遠隔制御が可能な空調設備を整備しました。

これによって、市内の小中学校・公共施設にデマンド制御ができるエアコンを整備しました。

総事業費	約13.6億円
市の一般財源	約5.2億円
デマンド制御保守料	年間約1,250万円

この事業を受注した事業者グループによって、事業は進められ、事業施設の電力会社は共同提案者の(株)F-Powerとなりました。

令和3年3月 新電力大手(株)F-Powerが会社更生法を申請
 令和4年3月 (株)汐留エネルギーが(株)FPSへ社名変更
 令和4年4月1日 (株)FPSが、(株)F-Powerから電力小売事業を譲受
 それ以降、瀬戸内市の電力会社は、(株)FPSとなりました。

くさかとしこの主張

国の「二酸化炭素排出抑制事業」を使って、小中学校のエアコン・公共施設の空調設備を整備した瀬戸内市ですが、はっきり言ってこの事業は失策だったと思います。

もう一年待って入れば、市のお金を使わずに小中学校のエアコンは整備出来ました。そして、整備に5年もかかりましたが、国の冷房設備対応特例給付金を使えば、1年で出来たはず。その上、こうして新電力会社と契約したがために、当初契約した新電力会社はつぶれ、経営破綻の受け皿の(株)FPSもこうして電気代が高騰し続けています。デマンド制御といわれるシステムもシステム保守料が毎年1,250万円もかかります。

今さらどうしようもありませんが、問題は(株)FPSとの交渉が切れる2年後の対応です。

市は、現在【脱炭素先行地域】という国の交付金を使って、地域新電力会社の設立を目指しています。(詳しいことは、とっしんVol.41をご覧ください。)そして、2年後の電気契約会社に地域新電力会社を視野に入れています。【脱炭素先行地域】の事業は、51億円(環境省交付金は約34億円)もの大きな事業です。失敗は許されない事業です。

議会へは、新電力会社への出資金が近々の予算としてあがるはず。これは、

これからしっかり、チェックしていかなければなりません。



行政 NEWS

とっしん

vol 42

今年は早くから台風が到来し、秋の台風シーズンを迎えました。幸いにも瀬戸内市には今のところ大きな被害はありませんが、決して他人ごとではありません。昭和20年、昭和51年、平成2年と、3度も床上浸水を経験している我が地域にとっては、身につまされます。こういった経験をするたびに、防災の必要性を痛感します。今後とも、災害情報の伝達の問題・避難所の問題・避難方法の問題に、しっかり取り組んでいきます。また、油杉川の排水の問題・干田川の排水の問題にも、しっかり取り組みたいと思います。排水は、農地を守るだけでなく家を守る、人の命を守るのですから、その必要性をしっかり声を上げていきます。

皆さまには本当にいつも、温かく見守っていただき、そして励ましていただき本当にありがとうございます。

私はいつも、皆さまの声を市政に届けていきたい、その思いがあります。その思いは、今もこれからも変わることはありません。

引き続き力強いご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

黄金に輝く田んぼ
【我が家のヒノヒカリ】



磯上で作成していた、防災手引書【防災 虎の巻】が、出来上がりました。令和5年度から創設された、【自主防災組織活性化促進事業補助金】を使いました。令和5年度から7年度までの、3年間限定の補助金です。十分の十の、有利な補助金です。

事業項目も4つに増えました。

★1号事業	防災訓練や防災活動にかかる費用	上限 5万円
★2号事業	防災機材の整備に係る費用	上限 8万円
★3号事業	学区等の防災体制の整備・強化に係る費用	上限 20万円
★4号事業	防災マップ作成に係る費用	上限 5万円
	防災マップの清書だけなら3万円	



磯上は、今年作成した防災マップを清書する補助金3万円(4号事業)と、清書した防災マップと磯上が以前から保有している防災情報をまとめて、防災手引書を作成する5万円(1号事業)を、申請して採択されました。

ぜひ、みなさんも活用を検討して下さいネ(°▽°)

令和5年10月22日発行
発行責任者 瀬戸内市議会議員

くさか としこ

〒701-4273
瀬戸内市長船町磯上 569
TEL/FAX 0869-26-6420
携帯 TEL 090-5702-8336
ホームページ



<http://www.kusaka-toshiko.jp/>

一般質問

今回の私の一般質問は

1. JR 駅前等整備計画について 2. 吉井川下流の治水計画について
を取り上げさせていただきました。

1. JR 駅前等整備計画について

JR 駅前等整備については、短期計画としてトイレの洋式化、駐輪場・駐車場整備、ロータリー整備が令和2年に始まり、長船駅・大富駅は完了しました。

たしかにあの問題だったトイレがきれいになりました。しかし長船駅に関しては、これでもう大丈夫という声は聞きません。

・長船駅の課題・

- ★(1) バリアフリー化(エレベーターの設置)を
- ★(2) 減少した駅前駐車場について
- ★(3) 駅前の道路整備について

★(1) 長船駅の一番の課題であるバリアフリー化(エレベーター化)について

駅前整備の短期計画が終わった今こそ、考える時が来たのではないかと追及しました。

市長に、『JRの東京支社・西日本支社からの話として、陸橋を上り下りしないといけない長船駅の問題に対し、地元から正式な要望やクレームが届いていないというのが、JRの認識であると教えられました。たしかに、わたしたちが東京に行って国土交通省の官僚にいった時にも、地元からは何の要望も聞いていないと同じことを言われました。

要望が届いていないといわれるのであれば、どんな手を使ってでも、だれを動かそうとも、どんなルートからであろうと、強い要望を届けようではありませんか。』とお願いしました。

また、産業建設部長からは、昨年同じ質問をした時には『今年度中には、バリアフリー化に関して、何らかの方針をお示しする予定である。』と、前向きな回答をもらったのですが、今年は大変難しい状況であるとずいぶん後ろ向きな回答になってしまいました。JRの厳しい状況があるためとは思いますが、これだけはどうしても実現しなければなりません。頑張ります。

★(2) 減少した長船駅前駐車場について

長船駅の駐車場は、工事前は85台ありましたが、現在は35台しかありません。

市民から見直しを求める声がたくさん届いているので、考え直すべきではと追及しました。

産業建設部長からは、昨年は、『今後、駐車スペースに不足が生じるようなことがあれば、柔軟に駐車スペースの確保を進めていく。』という回答でしたが、今年は、『現状調査や経済性及び稼働率等を考慮した場合、妥当な計画である。』というずいぶん後ろ向きな回答でした。

市にとっても駐車場は利益の出る分野であって、今は利用を控えている人も十分にあれば使用するものです。備前からの利用も望めると思います。こちら頑張ります。

★(3) 長船駅前の道路整備

駅から真っすぐ抜ける道が一部狭く、車が交差をすることができない状態です。

地元からもここを広げてほしいという要望が、随分前(たしか10年ほど前)から出ています。朝7時から8時すぎにかけて、とくに雨の日などは、駅にはいることさえできずに電車に乗り遅れることがあるほど、大渋滞がおきます。駅前整備には、道路整備も必須です。今こそ考える時だと強く要望しました。しっかりチェックしていきます。

2. 吉井川下流の治水計画について

くさかとしこの主張

磯上の西沖の水を油杉川に排水する西岡沖排水ポンプが、長船の衛生センターの隣にあるのをご存じでしょうか。70件の受益地45haの農業者から成る西岡沖排水組合が管理をしている排水ポンプです。

排水施設の規模は、37KWの能力のポンプが2台あり、排水量は、毎分60m³です。このポンプは、平成元年7月湛水(じんすい)防除事業で出来た排水ポンプです。

磯上の西沖は、磯上の西岡・山田・油杉・福里・そしてこれは長船町の時からの約束だそうですが、備前市の水を一手に引き受けている、天然の貯水池です。最初のつくりは農業用の排水ポンプとしてできたものかもしれませんが、今では防災のポンプ以外の何物でもありません。

磯上西沖の貯水が自然に油杉川に排出できない時に、ポンプを稼働して強制的に油杉川に貯水を排出します。地域の内水排除を一手に引き受けている、防災の要の排水ポンプです。

このポンプ、実は大変な維持費がかかります。

◆保安手数料が年間8万円

◆通常の電気代が年間9万円

◆ポンプ稼働料金が基本料金が通電時、月9.5万円、

夏季の水害がいつあってもおかしくない6～10月に電気を入れて、50万円

◆ポンプ稼働時の電気代がキロ10円、一回で1万円

一昨年までは年間40万円が、電気代の高騰で昨年は60万円、今年は70万円弱かかりそうです。それを受益地といわれる人だけでまかなっています。しかし、本当にこのポンプの維持費を田んぼや畑の受益地の人で維持しなければいけないのでしょうか。

これは防災ポンプではないでしょうか。市の責任をしっかりと追及し、行政が面倒を見るべきだとしっかりと訴えました。市長からは、地元と協議をしていくと回答をいただきましたが、昨年と同じ回答ですが何も変わってはいないときつく申し入れておきました。

これからも実現できるまで、言い続けます。



【西岡沖排水ポンプ】
37KWの能力のポンプが2基あり、排水量は1基毎分60m³です。



昭和51年の9月に台風17号の被害で、黄土色の泥海にどっぷり福里地区がつかった時の写真です。ちなみに磯上もどっぷりつかったそうです。

くさかとしこの主張

今回私は、豆田の排水ポンプの稼働判断について質問しました。流域治水の必要性が認識されていますが、吉井川の豆田の排水ポンプを今より早く稼働すると、干田川・油杉川の水位が下がり、より水位の上昇に時間が稼げると思います。そうなれば、内水氾濫の回避に役立つのではないかと考え、対応をお願いしました。吉井川下流の全体的な問題として、排水ポンプの稼働や、要の豆田の排水ポンプの能力や、河川の浚渫等、様々な課題があります。

だからこそ、総合治水計画や吉井川下流域整備計画が進行している今こそ、瀬戸内市の様々な課題全てをしっかりとその計画の中に入れ込んでもらって、総合的な治水を進めていただきたいとお願いしました。これからも、実現するまで要望し続けます。